

教育・研究業績書

領域名 成人看護学(急性期)		
<教員の紹介> 教 授 豊 嶋 三枝子 講 師 室 伏 圭 子		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月	概 要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
1. 学生による授業評価の活用	2008年 4月～現在	セメスター毎に行われる授業評価アンケートの結果に基づき、授業内容・方法の適切性を確認し、次セメスター、次年度への授業内容や方法改善へと役立っている。
2. 学生の授業に対するモチベーション向上への働きかけ	2007年 10月～現在	2セメスターからの「成人看護学概論」3・4セメスターの「成人臨床看護学」3セメスターの「フィジカルアセスメント論」5セメスターの「成人臨床看護援助論Ⅱ」において、必ず出席チェックを行い、学生の意識を促している。また、授業では発問および、VTR視聴などを積極的に取り入れ、学生のモチベーション向上や臨床での看護のイメージ作りを促している。演習においては、成人臨床看護学実習の学習への導入のために、気管内吸引、救急蘇生法、心電図、ストーマケア、創傷処置など、臨床現場がイメージできるような項目を取り上げ、演習を行った。また、フィジカルアセスメント論では、技術の修得のみならず、身体内部の査定を行うことで興味がわく様子であり、学生は熱心にとりくみ、反応からはよい動機づけとなっているようである。 2009年度4月から開始（3年生）の「成人臨床看護援助論Ⅱ」にテキストとして使用している。特に演習時の参考とし、自己学習に活用させている。

② 作成した教科書、教材、参考書		
<p>「手順・留意点・根拠で学ぶ実践看護技術 I」豊嶋三枝子監修</p>	<p>2008年3月</p>	<p>2009年度4月から開始(3年生)の「成人臨床看護援助論Ⅱ」にテキストとして使用している。特に演習時の参考とし、自己学習に活用させている。</p>
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
成人看護学(急性期)	教授	豊嶋 三枝子	
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1972年 4月～現在	日本看護学会員		
1999年 4月～現在	日本看護福祉学会員		
2000年 4月～現在	日本看護教育学会員		
2000年 4月～現在	日本看護科学学会員		
2001年 4月～現在	日本看護管理学会員		
2002年 10月～現在	日本看護技術学会員		
2004年 4月～12月	第8回日本看護管理学会実行委員		
2004年 9月 ～2006年 12月	第36回日本看護学会(看護教育)準備委員及び査読委員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 平井由佳, 秋山美加, 樋口由紀, 滝島紀子, 青山みどり, <u>豊嶋三枝子</u> , 蔵谷範子, 間瀬由紀, 北林司, 中西陽子, 鹿村真理子, 小川久貴子, 河内美栄, 白井端子, 南前恵子, 高木初子, 廣瀬規代美, 岡本里香, 田村文子: NCブックス改訂・増補版, 関連図の書き方をマスターしよう, 古谷須磨子監, バセドウ病患者の関連図の書き方, 医学芸術社, pp92-103, 2004.			
2. 城ヶ端初子, <u>豊嶋三枝子</u> , 増田安代, 阿部芳江, 水主千鶴子, 阿部智恵子, 脇本澄子, 樋口京子, 竹村節子, 山田光子, 田尻后子, 藤原聡子, 日隈ふみ子, 森田敏子, 堤かおり: 実践に生かす看護理論 19, 城ヶ端初子編, ヴァージニア・ヘンダーソン, 医学芸術社, pp37-58, 2005.			
3. 城ヶ端初子, 生野繁子, 水主千鶴子, <u>豊嶋三枝子</u> , 細野容子, 松尾和枝, 森田敏子, 脇田満里子: 「病」と看護職—生涯教育で何を学ぶか—, 城ヶ端初子編, 「病」「病人」と看護職の1. 急性期の「病」「病人」と看護職及び生活習慣と「病」の2. 運動・休息と「病」、職と「病」、病者の看護体験の手術を受ける患者, 金芳堂, pp106-111, pp149-159, pp179-183, 2005.			
4. 篠田道子, 須佐公子, 谷禮夫, <u>豊嶋三枝子</u> , 林芳治, 古川昭人, 若倉健: 必携ケアマネジャー試験対策 2005, KK医療福祉研究所編, 訪問看護, 居宅療養管理指導, 短期入所療養介護, 介護老人保健施設, 介護療養型医療施設, KK 医療福祉総合研究所, pp188-205, pp219-235, 2005.			
5. <u>豊嶋三枝子</u> , 村松由紀, 糸井裕子, 須佐公子: 手順・留意点・根拠で学ぶ実践看護技術, 豊嶋三枝子・村松由紀編, 診察・検査技術, 感染予防, 安全管理技術, 安楽確保技術, 死亡時の看護, 杏林図書, pp92 - 120, pp192 - 219, 2006.			
6. <u>豊嶋三枝子</u> , 村松由紀, 糸井裕子, 須佐公子: 手順・留意点・根拠で学ぶ実践看護技術 I, 豊嶋三枝子監, 診察・検査技術, 感染予防, 安全管理技術, 安楽確保技術, 死亡時の看護. 杏林図書, pp94-120, pp204-225, 2008.			

7. 城ヶ橋初子, 豊嶋三枝子, 水主千鶴子, 樋口京子, 藤垣静枝, 増田安代, 田尻后子, 藤原聡子: ケースカンファレンスで実感、臨床で使いたくなる看護理論, 城ヶ端初子編, ケースカンファレンスで実感! ヘンダーソンのニード論, メディカ出版, p62, 2008.

【原 著】

和文

1. 豊嶋三枝子, 堤かおり: 看護学実習における学生の自己効力感に影響する要因-インタビュー内容の分析-. 日本看護学教育学会誌 14: 19-30, 2005.
2. 豊嶋三枝子, 須佐公子, 城ヶ端初子: 看護学生の主観的健康観と予防的保健行動に関する研究. 日本看護福祉学会誌 11: 21-30, 2006.
3. 須佐公子, 豊嶋三枝子, 伊藤佳代: 介護支援専門員の仕事の困難性. 日本看護福祉学会誌 11: 87-94, 2006.
4. 豊嶋三枝子, 小口多美子, 金升子: 看護職の定年退職に対する思いと老後の生活設計に関する研究. 日本看護福祉学会誌 12: 55 - 65, 2007.
5. 小口多美子, 豊嶋三枝子, 金升子: 看護職の定年退職に関するアンケート調査. 第 37 回日本看護学会論文集—看護管理—: 442 - 444, 2007.
6. 豊嶋三枝子, 小口多美子: 看護職者の定年退職に対する思いと定年退職後の看護職継続意思との関連. 第 38 回日本看護学会論文集—看護管理—: 252-254, 2008.
7. 豊嶋三枝子, 小口多美子: 看護職者の定年退職に対する思いと老後の準備との関連. 獨協医科大学看護学部紀要 1: 23-28, 2008.
8. 平良由香利, 豊嶋三枝子, 室伏圭子: 過去 10 年間 (1997-2006 年) のプリセプターシップに関する研究の動向. 第 39 回日本看護学会論文集-看護管理-: 211-213, 2009.
9. 須佐公子, 豊嶋三枝子, 村松由紀: ケアマネジャーの職務状況とバーンアウトの実態. 第 39 回日本看護学会論文集 - 看護管理 - : 332-344, 2009.
10. 須佐公子, 豊嶋三枝子, ケアマネジャーのストレスとバーンアウトとの関連. 日本看護福祉学会誌 14: 29-38, 2009.

【症例報告】

【総 説】

【そ の 他】

和文

1. 豊嶋三枝子: ケアマネジャーのバーンアウト-その要因と実態-. 介護支援専門員 9: 13-15, 2007.
2. 室伏圭子, 豊嶋三枝子: プリセプターシップに関する研究の動向と課題 (2001-2005). 獨協医科大学看護学部紀要 1: 60-67, 2008.

教育・研究業績書

領域名	職名	氏名	
成人看護学(急性期)	講師	室伏 圭子	
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2003年～現在	国際ジェンダー学会員		
2003年～現在	日本社会学会員		
2003年～現在	関東社会学会員		
2006年～現在	NPO 法人フェミニストカウンセリング学会員		
2006年～現在	日本看護科学学会員		
2006年～現在	日本看護学教育学会員		
2009年～現在	日本保健医療社会学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 室伏圭子：「セクシュアル・ハラスメントの定義」と看護師の経験にみられる不一致. 武蔵文化論叢 武蔵大学, pp43-53, 2006.			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			
和文			
1. <u>室伏圭子</u> , 豊嶋三枝子：プリセプターシップに関する研究の動向と課題（2001-2005）. 獨協医科大学看護学部紀要Vol. 1, pp60-67, 2007.			
2. 天童睦子, 国広陽子, 室井尚恵, 木脇奈智子, 太田由加里, 宮崎聖子, 上松由紀子, 江川直子, 黄允一, <u>室伏圭子</u> ：若年層におけるケア意識の実態とその形成過程に関するジェンダー論的研究. 平成 16 年度—平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書, pp80-83, pp112-113, 2007.			
3. <u>室伏圭子</u> ：女性看護師が男性患者から受けるセクシュアル・ハラスメントに関する研究—事例および対処方法—. 獨協医科大学看護学部紀要 Vol. 2, pp24-34, 2008.			